



公益財団法人大阪YWCA

2020年度（令和2年度）

（2020年4月1日～2021年3月31日）

事業報告

はじめに

2020年度は、世界中がコロナ禍に翻弄された1年となり、大阪YWCAも様々な事業、イベント、グループ活動などを中止せざるをえない状況となりました。人と人が出会い、関り合い、共に働き、食事をし、語り合うことを大切にしてきたYWCAにとって、人と直接会い、話すことが制限され、距離をとることを求められることは、とても大きな痛手でした。

しかし、そのような中でも、様々な動きが生まれました。大学生の会員は、SNSを活用して、不安な状況の中でも思いを発信することを続けました。ステップハウスの元入居者への電話での相談対応の必要性や、一時給付金に関しての要望書作成の声を上げ、自ら文案を作成してくれた会員もいました。裁縫の特技を活かして作成された手作りマスクは、1000枚を超え、安心と笑顔を届け続けています。千里のボランティア委員会では、接することができなくなったシャロン千里の入居者とのつながりを無くしたくないと、手作りの暑中見舞を作って、送りました。また、異国で不安の中にいる留学生へ会員や有志の皆さまから、たくさんの食料品やマスク等の感染予防グッズなどが寄せられました。コロナ禍は様々な分断や差別を生んだ一面もありましたが、より困難に遭っている方々へ思いをいたし、知恵を出し合い、それぞれが考える最善を尽くすことを実践する機会も与えてくれました。

留学生たちは、学校に来ることができず、アルバイトが減ってしまったり、国への帰れない状況が続き、不安や孤独感、無力感、怒り、色々な気持ちになったことと思います。校外学習やクリスマスパーティなど、楽しい行事も何ひとつ行うことができませんでした。そのような中でも、心を折らずにがんばった学生たちに心からの賛辞を送りたいと思います。また、ご高齢の方の多い帰国者の皆さんが、積極的にオンライン授業に参加されたことから学びたい、繋がりを持ちたいという気持ちがひしひしと伝わってきました。専門学校や帰国者支援事業では、YouTubeやZoomを使つての授業に教員、職員が一体となって取り組みました。これまでオンライン化に消極的だったことを大いに反省させられましたが、学生たちの学びの場を継続できたのは、オンライン授業にも柔軟にご対応いただき、心をつくしてご指導いただいた先生方と職員の努力の賜物と感謝いたします。

最後になりましたが、まだまだ厳しい状況は続いていると思いますが、SNSなど新しい形のコミュニケーションも取り入れつつ、共感と信頼を大切にYWCAらしさも忘れずに、歩みを進めていきたいと思っています。皆さまの更なるご支援、ご指導のほどを、どうぞよろしくお願い申し上げます。大阪YWCAの事業・活動にご参加いただいた皆様、さまざまなご支援、ご協力、ご寄付を寄せて下さった皆様、講師、ボランティア、会員、お心を寄せていただいたすべての皆様への深い感謝と共に2020年度のご報告といたします。

公益財団法人大阪YWCA
総幹事・常務理事 中山 羊奈

目 的

キリスト教の基盤にたち、女性と青少年の力を集め、リーダーシップを養成し、すべての人にとっての正義・平和・健康・尊厳・自由・持続可能な環境を実現することを目的とする。

基 本 方 針

1. 非核・非暴力による平和の実現のために積極的に行動する
2. 多様性を認め合い、出会いの中で育ち合い、変革を担う人材を育成する

ビジョン 2020

大阪YWCAは、より良い社会の実現のために働く人を育て、女性のあらゆるライフステージの課題に包括的に取り組みます。

この10年は、「子ども・女性・非暴力による平和」をテーマに掲げて活動します。

YWCAが10年後に実現していきたい社会はこんな社会です。

＜子ども＞

- ★子どもたちが多様な人と出会い、ありのままを認めあえる場がある社会
- ★すべての子どもたちの将来へのチャンスが保障され、自律的に生きることのできる社会

＜女性＞

- ★すべての女性が、自分自身の生き方を決定し、力を発揮することのできる社会

＜非暴力による平和＞

- ★憲法の非武装・平和の精神があらゆる世代に浸透し、生活の中に根付いている社会

2020 年度標語

互いに励まし合い、思いを一つにし、共に生きる平和な世界を実現しよう

コリントの信徒への手紙二 13 章 11 節より

I. 教育事業

1. 専門学校事業

(1) 全体

今年度は各コースとも新型コロナウイルスの影響を受け、事業全体の見直しを迫られた。機材や備品の整備、教室のインターネット設備工事、教材の見直し、教員への研修等、オンラインを使った授業を提供すべく、教員、職員が一丸となり対応にあたった。課題はあるものの、これまでのオンライン授業でのノウハウを生かしつつ、今後も多様なニーズに応えられる日本語教育を行っていききたい。

(2) 日本語学科／本科・日本語第二学科

全日制総合日本語コース(本科)は、モーニング会話クラスや午前中のみ聴講生も含め、春期5クラス47名、秋期6クラス65名であった。新型コロナウイルスによる入学辞退者や新規入国制限により、春期入学者は激減、非常に厳しいスタートとなった。4月の緊急事態宣言を受け対面授業ができず、課題や動画配信で対応した。5月下旬からの分散・短縮授業を経て、6月末より通常授業を再開。夏休みを短縮する等して、授業日数を確保した。また、一時帰国し再入国できない在校生にはオンライン授業を行い、学習の遅れがないようにした。

1月より再び緊急事態宣言が出されたため、全クラス、ZOOMによるオンラインに切り替え、授業を行った。

様々な制約がある中、進路面では、早い段階から進路相談や出願手続きのサポートなど、きめ細かな指導を行っている。生活面では、長引くコロナウイルス感染拡大により経済的に困窮している留学生に、米やパスタ等の食料品の配給を行った。会員や賛助員、関係団体等に呼びかけたところ、多くのご寄付・寄贈があり、数回に分けて手渡すことができた。

今年度は新型コロナウイルスの影響で、海外での募集説明会や現地面接は行えず、オンラインを使った学校説明会や留学フェアなど、新たな広報手段を取り入れた一年であった。

(3) 日本語学科／別科

イブニングコース春期は新型コロナウイルスの影響で開講が遅れ6月スタートで4クラス、秋期は3クラスを開講した。日本の企業で働いている外国人がほとんどだが、日本人の配偶者や永住者、昼間は日本の学校に通う高校生も受講した。国籍は16ヶ国と多彩で、年齢も10代から40代まで幅広い層が在籍している。**能力試験準備コース**春期はコロナの影響で受講希望者が少ない上に7月の日本語能力試験自体が中止になり、開講できなかった。秋期はN2クラスのみを開講。中国、韓国、ミャンマー、アメリカの学生が7月に受けられなかった分、12月の試験に向けて意欲を持って受講した。**夏期集中コース**も、コロナの影響で開講できなかったが、次年度はオンラインで行う予定にしている。

プライベートレッスンについては、コロナの影響で継続中のレッスンもストップせざるを得なかったが、日本語学科本科と共に再開し、グループレッスンには参加できない学生がそれぞれのスケジュールに合わせてレッスンを受けた。また企業から、新規採用者の来日後14日間隔離期間中にプライベートレッスンをしたいとの依頼があり、ZOOMによるオンラインでプライベートレッスンを行った。

(4) 奨学金

今年度も大阪YWCA奨学金、大阪YWCA留学生里親の会奨学金、鈴木保奨学金それぞれの選考及び支給を行った。今年度の文部科学省外国人留学生学習奨励費は配分方法の変更により、学生数の少ない当校は推薦を受けられなかった。

前期募集は新型コロナウイルスの影響で学校が再開してからの7月に行ったが該当者が少なく、大阪YWCA奨学金のみの支給を行った。後期は申請者が少なかったうえに困窮している学生が多いことから、申請者8人全員に減額して支給した(月30,000円→20,000円)

またコロナの影響でアルバイトも減り経済的に困窮している学生が多いことから、大阪YWCA奨学金から一律一人20,000円を留学生全員に留学生支援特別給付金として支給した。

多くの方々のご協力、ご寄付により、奨学金を支給することができた。これからも、志高い勤勉な学生を一人でも多く経済的に支援していけるよう、努力を続けていきたい。

ここ数年、月一回の恒例となっていたランチスープはコロナの影響で年度初めから提供することができなかった。コロナが落ち着いてまた提供できるようになることを願いたい。

2. 日本語教師を養成する事業

(1) 日本語教師養成講座

昨年度よりカリキュラムを改編し、今年はその1年目であったが、新型コロナウイルスの影響で、4月から授業を全て停止し、**実践・応用コース**は6月から、**教養・基礎コース**は7月から開始となった。開講できなかった授業は、土曜日に振り替えをしたり、講師の単独授業を撮影し視聴してもらったりという応急処置をとった。終息の兆しが見えないことを見越し、秋学期からの基礎コースはZOOMによるオンライン授業に切り替えたことによって、時間割の変更をせずに予定通り終わり、スムーズに翌年度の応用コースへと橋渡しすることができた。

秋学期の**土曜日講座「多様化する地域社会に関わっていくために」**(全10回)も、対面とオンライン形態を併用し、数名の一般受講生を獲得できた。

本年度修了を予定していた受講生の教育実習も緊急事態宣言の合間をぬって敢行し、卒業したばかりの留学生に協力して参加してもらうことで、翌年度5月中旬に、無事オンライン修了式を執り行うことができた。

(2) 日本語教師会

新型コロナウイルスの影響で、日本語教師会の事業も変更や中止など多大な影響を受けた。4~5月の緊急事態宣言の下、5月中旬から「**日本語教育能力検定試験対策講座**」をZOOMによるオンラインで開始(6月中旬より対面授業)、8月末には大阪YWCAの現職日本語非常勤講師を対象に「**ZOOM 研修会・入門編**」を開催し、各コースのオンライン授業に備えた。

また、例年は年2回行っている大阪YWCA各日本語コースの非常勤講師募集の内、秋期についてはあらかじめ募集せず、春期の講師の継続勤務とした。

自治体・国際交流団体等での日本語ボランティア向け講習会や日本語教室への講師派遣については、中止になったものもあるが、日程を振り替えるなどして実施した(全7件)。大学等では、昨年に引き続き、トラベルジャーナル学園の日本語授業(一部、Webexによるオンライン)のほか、**企業の日本語研修**にも講師を派遣した。

日本語コースでは、「**ビジネス日本語上級クラス**」への申込者が少なく、春秋ともに開講できなかった。

セミナーとしては、3月中止になった「**日本語教師のためのイラストセミナー**」を9月に実施、「**日本語初級／中級文型の教え方講座**」も「初級文型」の開始を遅らせて6月より開催した。また、大阪市立総合生涯学習センターと共催で「**識字・日本語ボランティアのためのスキルアップ講座**」(8年目)を行った。

研修会・研究会関係では、「**文法・構文研究会**」、大阪YWCAで初めて教える会員を対象にした「**新人研修プログラム**」を実施した。

教材開発では、2021年度「**日本語夏期集中コース(オンライン)**」教材の作成を開始した。

3. 生涯学習の各種クラス・講座

「**子どもと子どもの本の講座**」は、新型コロナウイルスの影響で「**子どもと本をつなぐコース**」の4ユニットはすべて中止となった。「**図書館・学校ボランティアのブラッシュアップコース**」のユニット1もわらべ唄を唄うことは感染拡大防止のためには行わないのが賢明ということで中止とした。ユニット2前半のブックトークは少人数ながら感染防止対策をして開講した。コロナ禍で増えたオンラインでのブックトークの注意点等を講師に熱心に質問する受講生が多かった。後半の児童サービスの講座には受講希望者が少なく開講を断念した。「**児童文学を楽しむ特別講座**」は感染拡大防止の対策を取った上で開催した。

ランゲージコースは春期、秋期ともに**韓国語上級**、**ベトナム語初級**、**ベトナム語中級**の3クラス編成となった。秋期に新たなクラス—韓国語中級クラスの開講を準備したが、残念ながら、新型コロナウイルスの影響で集客できず開講に至らなかった。4、5月の緊急事態宣言による休講の影響で、全クラスの開講は1ヶ月遅く、6月から開講することになった。また、半年に1回開催する特別講座について、春期は開講できず、秋期は2021年2月にオンラインにて**ベトナム語新年特別講座**を開催した。

俳句講座は高浜虚子の孫、松田美子講師を迎え毎月行っており、今年度は会場をすべて梅田にして行う予定だったが、新型コロナウイルスの影響で集まる事が出来ず紙上の句会を行っている。足が悪くなり梅田の会館まで出て来られなくなった受講生が自宅からなら参加できると復帰している。日々の生活が心豊かになると好評である。

Ⅱ. 平和・人権・環境等国内外の社会問題についての学習及び普及啓発と人材養成事業

1. 人材育成・研修事業

「ソーシャルワークセミナー」では新型コロナウイルスの影響で、スケジュールに大幅な変更が生じたが、11月に「支援力養成コース」の中に設けた新講座「チーム力養成講座」(全5回)を開講できた。対面ということもあり受講生を多く望めなかったが、社会福祉や医療・保健、教育現場の支援者が、被支援者のニーズに目を向けながらチームで目標を達成していくプロセスとスキルを講義形式で学ぶ講座は受講生から好評を得た。今後も継続していく。

緊急事態宣言が発出されたため、発達障がいをもつ子どもたちの理解と支援を学ぶ講座「発達障がいをもつ人とともに」(全4回)と「傾聴力養成講座」(全5回)はZOOMによるオンラインで講演を行った。紙媒体のちらしを手にとってもらえる機会が減ったため受講生数は伸びなかったが、奈良や横浜といった遠方からの申し込みがあり、広報活動を見直せば今後の集客を改善できるという手応えを得た。上記の講座は全て大阪市ボランティア活動振興基金助成で実施した。

日本YWCAの北京+25 チームに呼応する形で、アドボカシーとOJT トレーニングの場として北京+25 大阪チームを立ち上げ、職員、大阪Yの会員、他市Yの会員が参加してスタート。政府の第5次男女共同参画基本計画策定にあたってのパブリックコメントを提出する等の活動を行った。3月には、運営委員や理事に向け、大阪YWCAでできる新たな取り組みを見据えたプレゼンテーションを行った。

2. 平和・環境についての学習と啓発事業

7月、会員向けの学習会「反人種主義抗議運動～YWCAの視点～」を実施。#BlackLivesMatter運動が起こり、人種差別への抗議が高まっていることを取り上げ、アメリカや日本で起こっている構造的な人種主義に関して学びを深めた。

「気軽に憲法について語れる場を」との思いから始まった憲法カフェは今年度も9月と12月に実施。講師は、藤井恭子氏(大阪法律事務所 弁護士)。9月は、テーマを「性暴力をゆるさない」とし、性暴力被害に対する現行刑法の問題点について考える場を持った。12月の憲法カフェは、はじめてオンラインで実施。「権力の私物化」をテーマとし、日本学術会議任命拒否や桜を見る会等、政治の立憲主義に反した様々な問題行為について考え、参加者同士意見を交換した。

2月には、雀部真理会員(平和・環境部委員会副委員長)をゲストスピーカーに、学習会「田舎暮らしの環境(えこばなし)～キリスト教と“気候の正義”をつらつらと～」を実施、大阪YWCA以外の方も参加していただき限られた時間の中で凝縮されたお話を聞くことができた。3月には、李信恵氏(フリージャーナリスト)を講師に招き、講演会「黙らない女たち～在日コリアン×女性 複合差別から社会を考える～」を実施、戦後の在日朝鮮韓国人についての歴史認識と、今なお向けられる差別の現実についてお話を聞き、共に差別を許さない社会の実現に向けて考えるきっかけとなった。2月3月はどちらもオンラインと対面併用で実施した。

3. 国際的な諸問題についての学習と啓発事業

パレスチナグループは、6月に日本YWCAのWeb セーフスペースを利用し、ZOOMにて「パレスチナ女子会」を実施。パレスチナに関心のある方がオンライン上で集い、気軽におしゃべりすることで交流を深めることができた。また、9月に「りさ～ら」(アラビア語で「手紙」「伝言」)を発行。会員や関係団体に送付した。

4. 東日本大震災被災者支援

2011.3.11以来、東日本大震災被災者支援担当は、福島の子どもたちを大阪に招くリフレッシュプログラム「大阪わいわいステイプログラム」の実施を中心に活動してきた。

2020年度は、2021年3月末に予定していた4泊5日の「大阪わいわいステイプログラム」を実施するための資金調達に努めてきた。その結果、文部科学省から「子供たちの心身の健全な発達のための子供の自然体験活動推進事業」の委託329,899円。また、日本YWCAから被災者支援事業補助金200,000円。合計529,899円のプログラム実施支援金を頂いた。しかし、残念ながら、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、1月中旬に本プログラムを中止すると心苦しい決断をした。また、東日本大震災被災者に継続支援の必要性があると道行く人に訴えるために2021年3月20日に予定していた街頭募金も同じく中止することにした。

例年は、プログラムの実施資金を調達する為に、チャリティーコンサートや、東北の物産を仕入れて梅田会館で販売する、などの活動をしてきたが、2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、チャリティーコンサートの実施も、物販の新たな仕入れも断念した。

活動をするのがなかなか難しい時期だが、「大阪わいわいステイプログラム」の10周年を迎え、新企画―「わいわいステイ記念動画作り」を始めた。東日本大震災被災者支援担当チームのメンバーで、過去の活動写真を数十枚ピックアップして、スライドショーにまとめ、音楽と合わせて動画として仕上げた。仕上げた動画は千里委員会主催の「東北に思いを馳せる集い」で上映した。

2020年は多くの人にとってつらい一年だったが、東日本大震災被災者支援担当チームは、どんな社会状況になっても、弱い立場に置かれた人たちを忘れない、自らが「被災者」になった時にも他者に支援の手を差し伸べることができる社会を共に築き上げるために今後も活動していきたい。

Ⅲ. 社会的に弱い立場におかれた人への支援事業

1. 知的障がいをもつ女性の社会参加を促進する事業

(1) グループパレット（知的障がいをもつ女性たちのグループ活動）

グループパレットは、知的ハンディキャップをもつメンバーが委員会に参加し、企画にも積極的に関わっている。ボランティアと協働して誰もが自分らしくいられる場づくりを目指し、様々なプログラムを実施している。月1回の例会は、毎回メンバーとボランティアが担当をとり、メンバーも主体的に関わっている。

本年度は、新型コロナウイルスの影響により、4月から6月まで例会が実施できない月が続いた。しかしその後は感染症対策を徹底し、工夫をしながら室内プログラムや外出プログラムを実施した。室内プログラムでは、エコバックやマスクなどを手作りしたり、ハーバリウム作りを行った。また外出プログラムでは、大阪くらしの今昔館を見学した。

本年度は、毎年恒例の一泊旅行も中止となったが、その代わりに10月に日帰り旅行で京都の太秦映画村へ出かけた。天候にも恵まれ、昔の街並みを散策したり、忍者ショーなどを楽しむことができた。

2. 視覚障がいをもつ人の社会参加を支援する事業

(1) むらさきつゆくさの会（視覚障がい者のための生け花の会とガイドヘルプ）

視覚障がい者のための生け花講座むらさきつゆくさの会は、4、5月はコロナの影響で休会したが、その後は感染防止対策を取った上で中山文甫会のご協力のもと毎月1回開催している。20代から80代までの幅広い世代の受講生8名と9名のボランティアが活動している。

(2) リーディンググループ

リーディンググループは、メンバーの減少で活動を継続することが難しくなったグループもあるが、それぞれに定期的に集まり朗読の録音や勉強会を行っている。

(3) 点字子ども図書室

新型コロナウイルスの影響で5月まで休止していたが、6月から再開。メンバーが密集して感染リスクが高まることを避けるため、一回当たりの活動人数を減らすなど様々な工夫を重ねながら活動を続けている。

今年度も多くの児童書を点訳した。2020年度末の蔵書数は3,765タイトル、7,770冊を数える。例年通り、統合教育を行う小中学校の算数・数学の教科書の点訳、金蘭千里中高のボランティアクラブで、点字講習を行っている。増えている蔵書の保管場所の確保を模索中である。

3. 高齢者の社会参加を促進する事業

千里ボランティア委員会の活動は主に高齢者向けの活動であり、人と人の距離を保つことが難しいため、新型コロナウイルスの感染拡大防止に努めるため「いいいの集い」、「おしゃべりルーム」、「シャロンカフェ」、「井戸端カフェ茶話茶話」は中止せざるを得なかった。「わいわいこども食堂」も同様に感染拡大の防止に配慮し、計画しなかった。8月には「新聞ちぎり絵でハガキを作る会」を行い、作ったハガキでシャロン千里入居者全員に「季節のお便り」を送った。

毎週木曜日に行っている「配食サービス」は6月に活動を再開。休止中は再開時期の問い合わせも多く、地域の高齢者に求められている活動であることを実感した。厨房で働き人が密集することを避けるため、1回あたりの人数を減らして作業をすることになり、慣れるまでは試行錯誤が続いた。配達ボランティアの獲得が目下の課題である。

主催講座は、コロナ禍を生きるをテーマに2回開催予定だった。1回目は講師に会友の内坂建氏を迎え、「フレ

イル（虚弱）についてよく知り、要介護状態への移行を予防しよう！」という講演会を11月に開催。2021年1月には土井直彦氏を講師に迎え「コロナ禍の心のケア」と題した講演会を行う予定だったが、緊急事態宣言発出のため延期となった。次年度での開催を検討している。

4. 女性のエンパワメント推進事業

主催講座のくれよん月例会「私らしく咲く～女性のこころの発達を考える連続講座～」は、計11回実施。年間テーマを「共感とこころの健康3-ハラスメント予防と共感-」とし、共感の観点から見たハラスメント予防をテーマとして扱った。

中高生に向けた包括的な性教育を考えるプロジェクトチーム、Rise Up School Visits（以下、RUSV）が今年度より始動。関西学院大学と大阪女学院大学の大学生を中心にチームを結成し、プロジェクトメンバーに向けた定期的な学習会の運営や、中高生を対象とした性教育プログラムの企画を行った。8月、中高YWCA6校に向け、「パートナーシップを考える」をテーマに、オンラインでのワークショップを実施。グループワークを交えて各校と繋がり、包括的な性教育の入門として、パートナーシップについて考えるきっかけを作ることができた。3月、プール学院中高YWCAに向け、「いけてるってなんやろう」をテーマに、オンラインワークショップを実施した。中高生にとっても身近な雑誌を題材とし、その中にある共通点や社会のスタンダードをグループで考えてもらった。社会が決めた価値観に気づいてもらうこと、自分の価値観を大切にすることや自分の意思決定の力を発揮することの大切さを伝えることが今回のワークショップの目的であった。

RUSV 学習会は10月と12月に実施。第1回目は、井ノ崎敦子氏（公認心理師）を講師に、パートナーシップに関して学び、第2回目は藤田圭以子氏（産婦人科医）を講師に、デートDVや性感染症をテーマに実施した。

また、3月末に全国合同Rise Up！交流会に参加した。2020年度大阪YWCAのRUSV活動を各地域Yに報告し、活動課題の共有ができた。

1月、牧野雅子氏（龍谷大学犯罪学研究センター博士研究員）を講師に招き、講演会「性暴力に対する社会の偏見を考える」を、オンラインをメインに実施。社会から根絶すべき性暴力に対する社会の偏見に関して学びを深める場となった。

2019年度3月末でステップハウス事業は終結し、今年度よりステップハウス元入居者支援グループが発足。12月には恒例となっているクリスマス会を実施。コロナ禍であっても年に1度の近況報告の場を大事にしたいとの思いから会を2部制とし、1部はオンラインで、2部は感染症対策に配慮して対面で行った。

関西学院大学神戸三田キャンパスの学生を中心に活動する関西学院大学YWCAは、6月のセクシュアルマイノリティの権利について訴えを強化するプライド月間に合わせて、#みんなでプライド月間を開催。SNSへの投稿キャンペーンや、Youtube トークライブ、ZOOM を利用したおしゃべり会を実施。大学生を中心にセクシュアリティの多様性について関心を持ってもらうきっかけを作ることができた。

5. 中国残留邦人等への支援事業

（1）近畿中国帰国者支援・交流センター（厚生労働省委託事業）

中国帰国者Ⅰ世代からⅢ世代まで、年齢や生活環境など多様な背景を持つ中国帰国者への支援を実施するため、日本語学習、交流、就労、介護など必要とされる様々な支援を行った。しかしながら、新型コロナウイルスの感染が拡大するにしたがい、年齢、持病等それぞれの事情により欠席する受講生が増えた。そのため、全体的なべ参加人数は例年の3分の1程度であった。また、語りかけボランティア派遣、校外学習、学習発表会、研修会等実施できなかった事業が多数あった。緊急事態宣言が発令された4、5月は日本語クラス、パソコンクラス、スクーリング、交流活動を全て中止した。1月中旬から再度発令された緊急事態宣言による休講では、オンラインでの授業を取り入れ、学習の機会提供に努めた。

2020年度、日本語学習支援として、春夏期、秋冬期ともに11コース16クラスを開講し、約280名が登録、毎月延べ約200名が来所した。Ⅰ世代対象の日本語クラスでは地域で役立つ「コミュニケーション能力」に重点を、またⅡ～Ⅲ世を中心としたクラスでは、集中的に学べるコースや上級レベルの日本語コースを開講し、「就職活動」「ビジネス場面」で役立つ日本語が学べるようにした。他にもキャリアアップ支援を目的とした「日本語能力試験」「観光・医療通訳技術」の資格取得対策、パソコンコースも引き続き開講した。これら通学学習課程に参加できない帰国者のためには、遠隔学習課程（通信教育）のスクーリングを実施した。また、交流事業としては、引きこもり防止を目的にⅠ世代対象に「朗朗（ランラン）クラブ」を実施した。延べ約240名の登録があり、季節の行事体験、介護予防体操、和洋裁等に参加している。但し、「密」になりやすいボランティアとの会話練習と社交ダンスは、感染拡大防止のため中止した。高齢化が進むⅠ世を対象とする介護支援事業「語りかけボランティア訪問」は新型コロナウイルス感染予防のため実施ができなかった。昨年度から引き続き関係を築いてきた介護施

設、利用者との繋がりを保つため、ボランティアの協力のもとカードや手紙を定期的に送った。3 月には語りかけボランティア養成を目的に、「外国にルーツを持つ地域住民への支援」に関する研修会を実施した。**地域支援事業**で毎年実施している各自治体職員対象の「**近畿ブロック担当者連絡会議**」は実施ができず、会議での配布予定資料を送付して対応した。各地域の現状、支援のニーズ等情報収集のため、各自治体を訪問した。地域での支援を充実させるため**地域生活支援推進事業**として、地域で支援活動をするボランティア団体、自治体等各関係機関、NPO との連携に努めた。また、尼崎市の支援団体である「コスモスの会」主催のシンポジウム「中国残留日本人への理解を深める集い」に協賛した。その他に中国残留邦人等への理解促進を目的とする**普及啓発事業**では、今年度3年目となる関西大学人間健康学部との連携プログラムとして研修会を予定していたが中止となった。**就職援助事業**では、上級クラスを対象に外部講師による特別授業「医療現場での通訳に役立つ知識～感染症の基礎知識～」を実施した。また就労が必要な若年層の受講生に、面接練習、日本のビジネス習慣に関するケーススタディ等を行った。

（２）大阪市中国残留邦人等に対する地域生活支援事業

大阪市中国帰国者支援事業では梅田に高齢者対象の日本語ゆっくりコース4クラス、パソコンコース1クラス、朗朗自習パソコンクラス1クラス、平野区に日本語コース2クラス、東淀川区に朗朗日本語クラブを開講した。合計約100名が在籍し、日本語学習や交流活動に参加した。参加者の高齢化に配慮し、それぞれのクラスで脳トレ、体操、歌などを取り入れ、楽しく継続して日本語が学べるよう実施した。

（３）門真市中国残留邦人等に対する地域生活支援事業

門真市中国帰国者支援事業では毎週日曜日、日本語コース3クラスを開講、約35名が在籍した。学習歴のない人や高齢者の参加を促進するため、“楽しく学ぶ”ことに重点をおいた。中級レベル以上に達した若年層の学習者は、支援・交流センターの日本語クラスで学習を継続した。**地域交流**を目的に実施した「**朗朗門真**」では昨年度から引き続き、手芸、介護予防体操、ヨガ等、引きこもり防止を目的に楽しみながら日本語に触れられるプログラムを実施した。

（４）京都市中国残留邦人等に対する地域生活支援事業

京都市・中国帰国者支援事業では日本語コース2クラスを開講し約10名が在籍。月1回、地域に住むボランティアの協力により会話練習を実施した。高齢者対象の「**朗朗京都**」には、9名が登録、月1回、健康体操、手芸等を行っている。参加者の居住地に近い会場のため、感染予防に気を付けながら積極的に参加する人が多かった。

（５）宇治市中国残留邦人等に対する地域生活支援事業

宇治市中国帰国者支援事業では日本語コース2クラスを開講し約10名が在籍。月1回、地域に住むボランティアの協力により会話練習を実施している。地域社会への参加の一つとして、毎年参加していた城南勤労福祉会館「会館祭り」は昨年度に引き続き実施が中止された。

（６）堺市中国残留邦人等に対する地域生活支援事業（堺健老クラブ）

堺市中国帰国者支援事業である**堺健老クラブ**は、毎週木曜日3クラスを開講、約30名が在籍。感染拡大防止のため、ボランティアとの会話練習を行う合同クラスは行わず、通常授業のみ実施した。

IV. 青少年育成事業

1. 青少年活動

（１）小中学生のための異文化理解プログラム

「のびのび走ろう、遊ぼう」を年間テーマとし、新型コロナウイルスの感染拡大のため、人が密集しやすい屋内でのプログラムを取りやめ、野外活動を中心とし、新しい生活様式の中でも子どもたちがのびのび遊べる場を提供することを目的にプログラム作りを行った。

11月の野外プログラムは「**やきいも大作戦—走って遊んで、焚き火でやきいも—**」と題して、吹田市自然体験交流センターわくわくの郷（大阪府吹田市）にて、焚き火でやきいも作りに挑戦。やきいもが出来るまでの間、しっぽとりや鬼ごっこでたくさん体を動かして遊び、久しぶりの野外プログラムを楽しむことができた。3月の親子プログラムは、同じくわくわくの郷にて、親子で竹を使つてのバームクーヘン作りに挑戦した。あいにくの天気であったが、家族で協力して立派なバームクーヘンを焼き上げることができた。

リーダートレーニングは、新人のリーダーを対象に子どもとのコミュニケーションやプログラム時の危険予知などの内容で、3 回実施。9 月には、初の試みとなるオンラインでのリーダートレーニング「2020 今のこども達とのかかわり」を実施。早川菜津美会員（こども部副委員長）と宮崎祐会員（大宮保育園園長）が講師となり、ジェンダーや人権という観点から、こども達と接する際の声掛けや関わり方について学びを深めた。11 月の野外プログラムの前には、火を使う際の危険予知トレーニング等を行った。2 月には、親子プログラムに向けてバームクーヘンの試作を中心にトレーニングを行った。

（2）こどもミニスクール

外部講師や会員の協力を得て様々なプログラムを提供している「こどもミニスクール」は、今年度も子どもゆめ基金助成を得て夏と冬に実施する予定だったが、新型コロナウイルスの影響で、2 回とも中止との苦しい決断をした。

2. 子ども図書室事業

コロナ禍にあり、全ての活動を9月まで休止していた。子ども図書室は利用者が近隣の子ども達であり、シャロン千里が高齢者のケアハウス・子ども館との複合施設であること、ボランティアメンバーは大阪府外からの参加者が多いなど、諸事情によりなかなか開室できないままである。

10 月には「ちゅうりっぷくらぶ」を再開したものの、その後休止、再開を繰り返している。

絵本やストーリーテリングの勉強会、毎年企画していた「おはなし会」、「ライブラリー・スクール」なども実施できなかった。

また、メンバーは保育園、小学校、図書館などで「おはなし会」を担当したり、講座の講師を務めたりしていたが、ほとんど中止となった。

少人数で集まり、「図書室の仕事」、「50 周年記念誌の作成」、「おはなし会関連の検討」など図書室再開に向けての準備作業を進めてはいたが、これらも現在は休止中である。

何の制約もなく自由に集える日の近いことを、ただただ祈るばかりである。

3. 子育て支援事業

千里子育て支援委員会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止に配慮し、人数制限のため新規参加者募集の停止など様々な制約の上で「おやこひろば」を7月から再開。緊急事態宣言による自粛期間中に溜まった母親のフラストレーションの解消につとめた。しかし感染拡大状況により活動内容は一進一退、恒例の人形劇はできたが、クリスマス会は中止となり、12月から2月末までおやこひろばは再度中止、3月から再開となった。

アドラーde ママズカフェも7月から再開。昨年と進め方を変え、参加者一人一人の声を聞く形になり、満足度がさらに高まっている。参加者皆にアドラー心理学の考え方も身につけてきたようである。感染拡大状況も鑑み、1月からはオンラインで開催している。

V. ボランティア養成事業

1. 梅田

様々な世代の交流、会員親睦などの機会をつくっている。

傾聴関連活動の傾聴カフェ・ラベンダーは、今年度はコロナの影響で開店を見合わせている。ミーティングを行い再開に向けて話し合いを重ねたが、結局今年度中の再開はしないこととした。研修会は例年通り、臨床心理士の井ノ崎敦子氏を招き行った。訪問傾聴・コスモスはコロナが少し落ち着いた7月から数か月は千里の個人宅に訪問し傾聴をしていたが再び感染拡大を受け中止している。

クリスマス会は12月になり急激な感染拡大を受け中止とした。そのかわりに、礼拝講師をお願いしていた日本基督教団都島教会の井上隆晶牧師にメッセージをいただき、会員発送に入れた。

梅田会員部所属グループは現在 13 あり、約 100 名のメンバーが自主活動を展開している。リーディンググループ、むらさきつゆくさの会、みのり会、英会話サロン、聖書を学ぶ会、スウスの会、いのちを語る会、絵手紙の会、手話サークル、などのグループが定期的に活動を行っている。各グループとも、コロナの影響で年度初めは自粛していたが、少し落ち着いてからは十分な感染予防対策をした上で再開している。

この他、ご寄贈頂いた無農薬の紫蘇で 7 月に紫蘇ジュースを作った。またパラダイス&ランチのパンは月一回のペースで販売している。

年二回行っているミニバザーは、今年度のコロナの感染状況を鑑みて人が集まらないようにゲリラ的に開催することし、名称を「きまぐれバザー」とし会員ルームできまぐれに開催している。中国帰国者には、少しずつ声をかけ、通りがかりの近所の方々やグループ活動のある日の会員に覗いてもらいながら不定期に開店している。12月に予定していた全体のクリスマスバザーが中止となってしまったが、そのためにご寄贈いただいた物品は「きまぐれバザー」として会館受付や会員ルームで販売している。

毎年恒例となっている美術鑑賞講座はコロナ禍で講師が繁忙のため、開催できなかった。

2. 千里

2020年度はコロナ禍による波乱の幕開けとなった。4月7日から5月31日まで日本全国に緊急事態宣言が発令され、その間会員活動は全て停止。千里だよりも5、6、7月は発行を見合わせた。緊急事態宣言が解除されてもコロナ禍が完全に終息したわけではなく、高齢者福祉施設であるシャロン千里では引き続き入館制限が行われ、会員活動も場所をこども館とボランティア室に限定し、感染拡大防止対策を各グループで工夫しての再開となった。未知のウイルスである新型コロナウイルスに関する情報は日々更新され、情報が錯綜することもあり会員間でも対応にばらつきが見られ、合意形成が難しい一幕もあったが、会員・利用者・ケアハウス入居者・スタッフの安全の確保を第一に活動方法を検討した。

不特定多数の来館を避けるため、6月のバザー、8月のバックウッズマウンティニアーズのコンサート、10月のガレージセールは開催を断念。収入の大幅減となった。少しでも収入を増やすため、毎年恒例の梅田クリスマスバザーに出店する予定だったが、バザーそのものが中止となり、出店できなかった。パラダイス&ランチのパンの販売も長らく中止していたが、11月に予約販売の形で再開。12月のクリスマスミニセールは辛うじて行ったものの、クリスマス会はコロナウイルスの感染再拡大のため中止を余儀なくされた。毎年恒例の毛糸の帽子を編んでみよう会は今年も多くの方の協力により234個の帽子が集まり、歯ブラシ、固形せっけんなどと共に釜ヶ崎に贈ることができた。東北に思いを馳せる集いは、大阪大学アカペラ部「うたゆい」をゲストに迎え、オンラインで開催した。そのおかげか、今回は福島YWCAのメンバーにも参加してもらうことができた。

千里合唱団は6月に練習を再開したが、歌声サロンの開催、千里ハンドベルクワイア、コールセンリの活動は見合わせの状態が続いている。聖書を読む会は7月から再開。今年度より大阪城北教会の東島美穂牧師を迎えて開催している。サロン四季、Bridgesも7月に再開。Bridgesは今年が創立25周年という節目の年のためイベントを考えていたが、コロナ禍のため断念。使用済み切手整理も7月に再開。コロナ禍の影響でJCSの切手の受付がストップしているため、整理のみ行い発送はしていない。文月会は9月に再開。20周年の節目の年だったが祝会を開催する予定を断念。その代わり「やまぼうし」17号を20周年記念号とする。「コロナの時代を生きる」というテーマでメンバー以外からの寄稿も募った。アトリエ創も9月に再開したが、休止中も各自自宅で個人作業を行っていた。会館清掃は10月に再開。清拭布の活動は2019年度をもって終結したため、今年度は行っていない。

趣味のグループ生け花、水彩画は6月に再開。コロナ禍での貴重な憩いのひと時となっている。

1度目の緊急事態宣言が解除された後も、感染の拡大状況に応じて活動を一時的に中止するグループも多く、今年度のグループ活動は新型コロナウイルスの動向に振り回された1年となった。

3. ボランティアの受け入れ

電話やホームページからボランティアの問い合わせがあり、問い合わせがあればその都度、個別での対応を行っている。1年間のボランティア登録者数は8名。今年度は、クリスマスバザーが中止となったため、バザーボランティア希望者向けの説明会の開催はなかった。

4. ファンドレイジング

(1) クリスマスバザー実行委員会

今年度は、運営委員会が実行委員会を兼ね、委員会ごとに売場を担当する形で準備を進めていたが、11月下旬頃より新型コロナウイルスの感染が更に拡大したため、やむなく中止することにした。尚、寄贈品等は新品のみとして会員を中心に募集をし、ご協力をいただいた物品は梅田会員部委員会で活用した。また、多数の企業より物品提供や寄付のご協力をいただき、深く感謝している。

(2) その他寄付等

新型コロナウイルス感染症パンデミックの影響でチャリティーイベントは開催することができなかったが、多くの会員から会員維持費及びクリスマス献金として多大なご寄付が寄せられた。

VI. 広報

1. 機関紙

発行回数は、定例機関紙 [A4 版 4 頁] 年 6 回。今年度は、ワン・ワールド・フェスティバルがオンラインでの開催になったこともあり、特別号 [A3 版両面] の発行はなかった。

定例版の 1 面は主に外部執筆者にその時々課題を明確にする寄稿を依頼、2～3 面は、YWCA の関心事や活動テーマを掘り下げる内容となっている。1～3 面で取り上げたテーマは、手話サークル Knot、宮古島の米軍基地建設問題、アンステレオタイプアライアンス日本支部の活動、コロナ禍で深刻化する DV 等。4 面には、専門学校を始め大阪 YWCA に関わる報告を主に掲載した。連載では、『ぶどうの木』、『YW の窓』、『わたしのイチオシ』を継続。

2. 広報

大阪 YWCA という団体の認知度を上げていくため、どこに対して広報をしていくべきか、どこに重点を置くにより魅力がアピールできるのかといった課題についてミーティングを行い話し合った。広報する対象によってアピール内容や広報手段は変わるだろうという点で意見が一致し、広報ツールの一つとして、リーフレットはやはり不可欠ということで、現在使用している団体紹介リーフレットの内容をアップデートして、大阪 YWCA の魅力を端的に伝えることができるよう検討している。

3. ホームページ・WEB 関連

今年度の HTP からの問い合わせ（専門学校を除く）は、年間 83 件あった。問い合わせ対象で主だったのは社会貢献活動部門のプログラム、ボランティア活動、教師会関連、講座関連の 4 種類だった。Facebook、twitter、Instagram でのこまめな情報発信を心掛け、大阪 YWCA のファンの獲得に努めている。

VII. 日本 Y・他市 Y・他団体関係

今年の世界 YWCA 日のプログラムは、「韓国 DAY」と題し、日韓ユースカンファレンス参加者からの報告を聴き、韓国料理を食べながら、韓国のこと、世界のことに思いを馳せる時とするべく企画をしたが、残念ながら中止となった。

YM/YW 合同祈祷週集会は「希望の光：実践的な霊性によって、レジリエントのあるコミュニティを創る」をテーマに、担当の大阪 YWCA のご尽力によりオンラインと対面の併用で実施。例年の食事を囲んでの交流は残念ながらかなわなかったが、原田佳城牧師（日本聖公会大阪聖パウロ教会）による礼拝と各 Y からの活動報告が行われ、大阪 YWCA からは、平和・環境部と女性エンパワメント推進チームの取り組みが PPT を使って報告された。

日本 YWCA の地域 YWCA を主体とした活動助成による 4 市 Y（京都、神戸、名古屋、大阪）合同ミーティングは、運営委員研修とキリスト教基盤、ユース育成の 2 つのタスクチームに分かれ、4 市 Y からの課題をそれぞれの地域 Y で検討、実践し、オンラインミーティングで共有、意見交換を行う、という形で進められた。合同ミーティングからの課題があることで、キリスト教基盤やユース育成についての運営委員会で協議する機会を持つことができ、財政とキリスト教基盤をテーマに運営委員研修を実施した。

11 月の日本 YWCA 全国会員総会には、代議員 9 名、陪席 2 名、傍聴 3 名が参加。初めて全面オンラインで行われ、決議事項については郵送による書面決議となった。議事終了後は、恒例の Y's Wonderful Women 賞の受賞式が行われ、大阪 Y からも上田由美子会員、瀧本政子会員、都木恵子会員の 3 名が受賞した。新しい試みが多く、画面越しではあったが、全国で共に活動する仲間と想いをひとつにし、次の 4 年に向けてのスタートを切ることができた。また、全国会員総会前日に行われたプレイベント「北京女性会議・北京行動綱領採択から 25 年！ジェンダー平等に向けた Intergenerational Dialogue」には、スピーカーとして栗田明日香会員と堀河昌子会員が登壇した。

2017 年発足し、呼びかけ人として関わってきた「ヒバクシャ国際署名推進・大阪の会」は、署名の最終期限を迎えたことを期に 3 年間の総括を行い、活動を終結した。

VII. 収益事業

社会福祉法人大阪キリスト教女子青年福祉会の経営する大宮保育園に対して、本財団の大宮町の土地・建物を貸与。また、同じく同福祉会の事務業務の一部を受託した。

資 料

I. 教育事業

1. 専門学校事業

(1) 全体概要

◇会議

＊日本語本科別科ミーティング 1回実施 出席数8名

◇外部団体合への参加・出席

＊大阪府専門学校各種学校連合会

- ・専修学校グローバル化対応推進支援事業留学生委員会ワーキング会議（9回）中山羊奈
- ・通常総会（6/26）中山羊奈
- ・人権教育研修会・分科会（10/2）李婧
- ・中堅教職員対象研修会（10/23）川崎仁子
- ・専門学校教職員向けオンラインセミナー「今こそ考える留学生支援」（1/28）中山羊奈

＊日本語教育振興協会

- ・日本留学 AWARDS 進学・就職相談会 2020（オンライン）（9/18）清島千春
- ・日本留学 AWARDS 進学・就職相談会 2020 セミナー「2020年度の日本語学校の対応」（オンライン）（9/19）川崎仁子
- ・近畿地区日本語学校緊急研修会（オンライン）（10/16）川崎仁子、藤田実余子
- ・日本語学校教育研究大会（オンライン）（2/27、28）川崎仁子、藤田実余子

＊その他

- ・エール学園主催 日本語教育に関わる産官学 ZOOM 座談会（4/17）川崎仁子、小出芳生
- ・アクセスリードネクステージ主催 日本語学校教員対象進学説明会（6/23）小出芳生
- ・文化庁主催 文化審議会国語分科会日本語教育小委員会（オンライン）（6/25）川崎仁子
- ・JETRO 主催 ウェビナー「新型コロナを巡るロシア・中央アジアの現状と経済動向（オンライン）（7/7）上野優歌、藤田実余子
- ・凡人社主催 日本語サロン研修会「日本語教育を取り巻く環境変化と私たちが取り組むべきこととは？」（オンライン）（9/5）川崎仁子
- ・全日本学校法人日本語教育協議会主催 オンライン授業集中研修（9/5）清島千春、小出芳生
- ・さんぼう主催 ウェブセミナー「オンラインで学校の魅力を伝える方法について」（9/8）川崎仁子
- ・株式会社 JELLYFISH 主催 セミナー「海外現地学生の心をつかむ！日本語学校のブランディングとは」（オンライン）（10/2）奥美和子、川崎仁子、藤田実余子
- ・凡人社主催 日本語サロン研修会「藤本かおる先生『教室へのICT活用入門』増刷記念ウェビナー～理論から考えるオンライン授業～」（10/3）清島千春、李婧
- ・文化庁主催 授業目的公衆送信補償金制度のオンライン研修会（10/7）川崎仁子
- ・大阪地域留学生等交流推進協議会主催 外国人留学生の在留手続きと申請取次研修会（オンライン）（10/9）李婧
- ・株式会社 Linc 主催 オンラインセミナー「学校が取り組むべき、コロナ禍における最適な新入生への対応とは？」（10/28）藤田実余子
- ・株式会社大塚商会主催 オンラインセミナー「あらためて見直す！一歩先のテレワーク、オンラインセミナー」（11/18）川崎仁子、藤原裕美子、李婧
- ・一般社団法人外国人雇用協議会主催 オンラインセミナー「新しい環境下における外国人留学生の生活・就職支援の在り方」（12/18）川崎仁子、小出芳生
- ・株式会社 Linc 主催 オンラインセミナー「中国ソーシャルメディアにおける広告施策」（1/20）李婧
- ・文化庁主催 日本語教師の資格に関する調査研究協力者会議（オンライン傍聴）（1/25、2/26、3/23）牛江真由子、奥美和子、川崎仁子
- ・一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会主催 授業目的公衆送信補償金制度のオンライン説明会（1/29）川崎仁子
- ・株式会社 Linc 主催 オンラインセミナー「ICT教育における取り組みとその課題」（3/26）藤田実余子
- ・セブンセンシズ株式会社主催 「グーグルマップで集客アップセミナー」（3/26）川崎仁子、藤田実余子

◇外部来訪・訪問

- ・大阪出入国在留管理局審査管理部門来訪（4/8）3名 大阪Yより川崎仁子、藤田実余子
- ・エール学園訪問（7/6）6名 大阪Yより清島千春、小出芳生、佐伯玲子、藤田実余子

◇カウンセリングルーム カウンセラー：井ノ崎敦子 相談者数実数3名、延べ相談回数6回

(2) 日本語学科／本科・日本語第二学科

◇クラス数／学生数

※モーニング会話クラスを含む。

クラス数		学生数				
		1年	1.5年	第二学科	一般	合計
春期	5	4	21	17	5	47
秋期	6	4	29	16	16	65

◇出身国と地域

中国、台湾、韓国、タイ、シンガポール、ベトナム、ネパール、モンゴル、ウズベキスタン、イラン、ベルギー、メキシコ

◇会議・研修会

日本語本科受入れミーティング 6回実施 出席延数 33名

日本語本科ミーティング 14回実施 出席延数 98名

担任会 5/13、9/30、1/15、3/22 出席延数 36名

全体講師会 4/2 10/8 出席延数 78名

全体反省会 9/25、3/5 出席延数 69名

中間講師会 7/27、12/14 出席延数 66名

春期報告会 9/23 出席 10名

卒業判定会議 3/3 出席 10名

予備教育講師会 3/3 出席 9名

ZOOM 研修会 7/27 出席 25名

◇進学指導・生活指導関係

内 容	回数もしくは日程	出席者数
実力テスト	4回	194 (受験者のみ)
文法テスト	5回	243 (受験者のみ)
定期テスト (5科目)	3回	688 (受験者のみ)
エール学園主催 日本留学試験模擬試験	7/11	15 (受験者のみ)
J. TEST (実用日本語検定)	9/12	37 (受験者のみ)
日本留学試験	11/8	33 (受験者のみ)
日本語能力試験	12/6	43 (受験者のみ)
継続生クラス分けテスト	9/17、3/11	57 (受験者のみ)
新入生クラス分けテスト	10/5、3/29	16 (受験者のみ)
進学説明会	7/21	36
進路相談・学習相談	78回	78 (学生のみ)
予備教育：総合科目 4月～11月 34回 英語 4月～12月 27回 数学 4月～3月 40回 物理/化学 4月～3月 35回		
午後2 漢字クラス：4月～9月 (2クラス) 週3回、(3クラス) 週2回 10月～2月 (2クラス) 週3回、(3クラス) 週2回		

◇年中行事・校外学習・課外活動プログラム・特別授業

内 容	回数もしくは日程	出席者数
オリエンテーション	4/7、10/13	103
スピーチコンテスト	9/25	45
留学生体験プログラム (アロマサシェを作ろう)	12/9、10、11	23
レントゲン検診	12/10	53
新入生オリエンテーション	12/15	10
卒業式	3/10	77

◇学生募集

・台湾 ACD主催

オンライン学校説明会打合せ (7/13) 李婧

オンライン学校説明会 (7/20) 川崎仁子、李婧

・台湾 日本村主催

オンライン学校説明会打合せ (8/6、19、20) 川崎仁子、藤田実余子、李婧

オンライン学校説明会 (8/22) 川崎仁子、李婧

- オンライン企画説明会 (3/5) 李婧
- 職員向けオンライン説明会 (3/16) 川崎仁子、李婧
- 午間日本留学オンライン座談会打合わせ (3/25) 李婧
- 午間日本留学オンライン座談会 (3/26) 李婧、卒業生4名
- ・モンゴル TAKA&TOMO 主催
- 日本留学フェア (10/10、11) TAKA&TOMO 現地スタッフ

(3) 日本語学科／別科

◇イブニングコース

春期：4クラス 26名 秋期：3クラス 16名

出身国／地域：中国、フィリピン、ミャンマー、ネパール、ベトナム、アメリカ、カナダ、ペルー、オーストラリア、イギリス、イタリア、フランス、オーストリア、モロッコ、ベナン、トルコ

◇日本語能力試験準備コース

春期：開講できず 秋期：1クラス (N2) 6名

出身国／地域：中国、韓国、ミャンマー、アメリカ

◇プライベート・出張授業 7件

◇会議

イブニングコース 春期講師会 6/9 10名

イブニングコース 春期中間講師会 7/21、31 延8名

イブニングコース 秋期中間講師会 12/8、11、22 延8名

イブニングコース 秋期講師会 10/16 9名

日本語能力試験準備コース 秋期講師会 9/4 6名

別科ミーティング 10/29、11/9 延8名

ダイキン工業株式会社プライベートレッスン打合せ 11/10 6名

◇プレイスメントテスト

イブニングコース 春期プレイスメントテスト 6/4、5、9、16 延16名

イブニングコース 秋期プレイスメントテスト 10/9、13、15、26 延5名

日本語能力試験準備コース 秋期レベルチェックテスト 9/1、14 延5名

(4) 奨学金

奨学金名称	受給者名	受給額
留学生支援特別給付金	春39名 / 秋7名	20,000円
大阪YWCA留学生里親の会奨学金	クック フン ホア (ベトナム／女) ブイ チュー タン チャン (ベトナム／女)	120,000円 (6ヶ月)
鈴木保奨学金	ロペス (メキシコ／男) チョン ソジン (韓国／女)	120,000円 (6ヶ月)
大阪YWCA奨学金	グエン マイ フーン (ベトナム／女) チャン ティ チャン (ベトナム／女)	180,000円 (6ヶ月)
	トゥ ヴィン タイ (ベトナム／男) ダン ティ フォン マイ (ベトナム／女) 徐 悦美(中国／女) ヴ ティ トウエット ヌン(ベトナム／女)	120,000円 (6ヶ月)

2. 日本語教師を育成する事業

(1) 日本語教師養成講座

◇新規入学者 春期2名 秋期2名

◇在籍数 16名 (1名休学)

◇講義回数 (年間総時間数420時間)

	月・金	火	水	木	土	計
春期	40	20	10	9	—	100
授業視聴			21			
秋期	40	20	22	19	10	89

◇修了生数 7名

◇プログラム

- *講座「多様化する地域社会に関わっていくために」 全10回 延57名
- *FFP (Foreign Friendship Program) 中止
- *日本語本科会話授業 中止
- *日本語教師体験談～ベトナム編～ 9/5 参加者11名
- *ミニ講座「体験！日本語だけで日本語を教える?!」 9/19 参加者5名、3/27 参加者3名
- *ミニ講座「日本語ってどんなことば?!」 3/23 参加者6名
- *受講生募集ガイダンス 全13回 参加者延20名
- *個別説明会 1回 参加者1名

(2) 日本語教師会事業

- ◇会勢 新規入会者17名 総会員数221名 (内休会68名)
- ◇月報「マンスリー日本語教師会」の発行 (12回)
- ◇図書・テープの貸し出し状況 図書 123冊、視聴覚教材 35本
- ◇入会オリエンテーション (日本語授業プレゼンテーション含む) (1/30 18名)
- ◇専任講師 佐伯玲子
- ◇専任講師会の実施 計7回
- ◇日本語教育状況

学校・コース名	教師数			
	春期	夏期	秋期	冬期
専門学校日本語学科全日制	34	—	35	—
〃 モーニング会話			5	—
〃 イブニング	8	—	7	—
〃 能力試験準備			2	
近畿中国帰国者支援・交流センター	18	—	18	—
中国帰国者支援事業日本語コース梅田教室(大阪市)	4	—	4	—
〃 平野教室	2	—	2	—
〃 東淀川朗朗クラブ	1	—	1	—
〃 門真教室	3	—	3	—
〃 京都教室	2	—	2	—
〃 堺 健老クラブ	3	—	3	—
プライベート及び出張授業	7件／教師11名			

◇講座・研修会・研究会・プロジェクト

- ①新人講師研修会 全13回 対象者11名
- ②日本語教師ビギナーのための日本語初級文型の教え方講座 講師：佐伯玲子 全9回 7名
- ③初級文型との違いがわかる！日本語中級文型の教え方講座 講師：佐伯玲子 全11回 12名
- ④2020年度日本語教育能力検定試験対策講座 講師：島千尋 第一期：全7回 17名 第二期：全7回 20名 第三期：全9回 27名
- ⑤識字・日本語ボランティアのためのスキルアップ講座 (大阪市立総合生涯学習センターと共催)
講師：伊東和子、金香百合、野村麻里、林昌子 全10回
- ⑥日本語教師のためのイラストセミナー 講師：児島弥生 全1回 32名
- ⑦文法・構文研究会 全7回 メンバー11名
- ⑧ZOOM研修会・入門編 全1回 20名
- ⑨オンライン授業プロジェクト (日本語夏期集中コース教材作成) 全13回 延51名

◇外部出張 (講師として)

- ①大阪市立総合生涯学習センター「にほんごこんにちは(基礎レベルの日本語教室)」全40回
伊東和子、大町曉美、林昌子、山田登
- ②大阪市立天満中学校夜間学級研修 全1回 里井有里
- ③大阪府教育庁「支援者養成講座」 全3回 伊東和子、辻村文子
- ④ダイキン工業日本語グループ研修 2クラス 野村麻里
- ⑤天理市立北中学校夜間学級スタッフ研修 全4回 里井有里
- ⑥トータルサービス日本語研修 3クラス 加藤育子、山田登

- ⑦トラベルジャーナル学園日本語授業 19クラス 池田敬子、大西雅子、辻三千恵、林昌子、日吉和久
 ⑧枚方市文化国際財団「日本語ボランティア養成講座」全8回 野村麻里、福家枝里、山田登
 ⑨松原市「日本語学習パートナー入門講座」全2回 辻村文子
 ⑩八尾市立八尾中学校夜間学級職員研修 全1回 伊東和子

◇外部集会・研修参加

- ①大阪府教育庁来訪(5/26、9/9、12/7) 川崎仁子、佐伯玲子、藤原裕美子
 ②大阪観光局「留学生支援コンソーシアム大阪」2020年度会合(7/9、11/19、2/18) 川崎仁子、佐伯玲子
 ③トラベルジャーナル学園来訪(8/26、2/26) 川崎仁子、佐伯玲子、藤原裕美子
 ④大阪YMCA日本語教育センター「日本語教師のためのじっくり学ぶ講座『CEFRとその応用』
 (オンライン)(9/10、9/17、9/24、10/8) 佐伯玲子
 ⑤枚方市観光交流課訪問(12/7) 川崎仁子、藤原裕美子
 ⑥トータルサービス訪問(12/17) 川崎仁子、佐伯玲子
 ⑦大阪市教育委員会来訪(2/8) 川崎仁子、藤原裕美子
 ⑧トラベルジャーナル学園「ロイロノート・スクール」説明会(2/9) 佐伯玲子、藤原裕美子
 ⑨大阪市立天満中学校夜間学級来訪(2/12) 川崎仁子、藤原裕美子

3. 生涯学習の各種クラス・講座

(1) ランゲージ

◇クラス状況

科目	春期		秋期	
	クラス数	在籍数	クラス数	在籍数
韓国語	1	5	1	5
ベトナム語	2	13	2	12

◇単発講座

プログラム名	日程	参加者数
ベトナム語オンライン特別講座「ベトナムの新年と我が家の新年」	2/13	8

◇プライベートレッスン

クラス名	回数	在籍数
韓国語プライベートレッスン	5	2
ベトナム語プライベートレッスン	2	2

(2) 子どもと子どもの本の講座

◇クラス状況

内 容	回数	延人数
子どもと本をむすぶ基礎コース	0	0
図書館・学校ボランティアのブラッシュアップコース	2	8
児童文学をたのしむ特別講座	3	34

(3) 生涯学習・教養講座

講座名	講師	回数	受講者(延人数)
俳句講座(紙上)	松田美子(俳人高浜虚子の孫・俳誌「春潮」主宰)	11	187

II. 平和・人権・環境等国内外の社会問題についての学習及び普及啓発と人材養成事業

1. 人材育成・研修事業

◇連続講座

ソーシャルワークセミナー		回数	延人数
傾聴力養成コース(オンライン)		5	38
支援力養成コース	発達障がいをもつ人とともに(オンライン)	4	24
	チーム力養成講座(対面)	5	43

◇北京+25 大阪チーム

集会名	回数	参加者数（内職員）
ミーティング	9	62（41）
打合せ	2	4（0）

◇外部講座

依頼先	内容	日程	延人数
(株)クボタ	コーチングコミュニケーション研修	11/12	19
	新任役職課長マネジメント研修	11/13、19	38
イズミヤ(株)	エルダー研修	2/8、22	14

2. 平和・環境についての学習と啓発事業

◇主催事業

プログラム名	講師等	集会日	参加者
反人種主義抗議運動～YWCA の視点～	小澤裕子、他（大阪YWCA会員）	7/18	6
性暴力をゆるさない	藤井恭子（弁護士）	9/19	16
憲法カフェ	藤井恭子（弁護士）	12/19	8
田舎暮らしの環境	雀部真理（大阪YWCA会員）	2/6	12
黙らない女たち	李信恵（フリージャーナリスト）	3/6	26

3. 東日本大震災被災者支援

集会名	日程	参加者数（内職員）
わいわいステイプログラム動画作成作業会	8/22、9/19、11/21	13（3）

Ⅲ. 社会的に弱い立場におかれた人への支援事業

1. 知的障がいをもつ女性の社会参加を促進する事業

（1）グループパレット（知的障がいをもつ女性たちのグループ活動）

◇2020 年度登録者数 13 人

集会名	集会日	参加人数
例会	年間 4 回	延べ 48
家族の集い	—	—
日帰り旅行 行き先：京都太秦・映画村	10/11（日）	8

2. 視覚障がいをもつ人の社会参加を支援する事業

◇点字子ども図書室

	回数／年	延人数
点字図書製作	36 回	328
点字図書貸し出し	37 回	120

貸出対象人数	貸出タイトル数	貸出冊数
41	99	174

◇視覚障がい者支援

グループ名		回数	延人数
リーディンググループ	エコー	3	9
	ぼれぼれ	3	9
	わ	1	4
むらさきつゆくさの会	8	受講生	54
		ボランティア	67

3. 高齢者の社会参加を促進する事業

◇配食サービス

回数／年	配食数／年	総数／年	調理働き人／年	運転働き人／年
36	2,186	2,924	346	144

◇主催事業

行事名	集会日	延人数
新聞ちぎり絵でハガキを作る会	8/3	11
講演会「フレイル（虚弱）についてよく知り、要介護状態への移行を予防しよう！」	11/14	21

4. 女性のエンパワメント推進事業

◇プログラム

プログラム名	回数・集会日	人数
くれよん月例会	11	61
オンラインワークショップ「パートナーシップを考える」	8/7	86
オンライン学習会「パートナーシップについて」	10/24	13
オンライン学習会「デートDV、性感染症について」	12/12	10
ステップハウス クリスマス会	12/19	11
オンライン講演会「性暴力に対する社会の偏見を考える」	1/16	42
オンラインワークショップ「いけてるってなんやろう」	3/18	17

◇外部集会・研修・会議等

プログラム名	集会日	参加者数（内大阪Y）
DV 被害者支援ネットワーク近畿定例会	8/25	6（2）
ワンワールドフェスティバル for Youth オンラインイベント	12/6	20（2）

5. 中国残留邦人等への支援事業

（1）近畿中国帰国者支援・交流センター（厚生労働省委託事業）

◇クラス状況

*通学学習課程（春・夏期 9月末在籍者）

クラス	在籍者数
入門日本語	7
集中日本語	5
日本語A	11
日本語B	8
日本語C	10
日本語D	19
日本語E	20
日本語F	18
日本語G	14
日本語H	9
上級ビジネス日本語	11
日本語能力試験N3対策	21
日本語能力試験N2対策-A	13
日本語能力試験N2対策-B	9
日本語能力試験N1対策	17
観光・医療通訳技術	13
パソコン基礎	5
合 計	210

*通学学習課程（秋・冬期 3月末在籍者）

クラス	在籍者数
入門日本語	7
集中日本語	5
日本語A	14
日本語B	8
日本語C	11
日本語D	21
日本語E	20
日本語F	18
日本語G	14
日本語H	9
上級ビジネス日本語	11
日本語能力試験N3対策	21
日本語能力試験N2対策-A	13
日本語能力試験N2対策-B	9
日本語能力試験N1対策	18
観光・医療通訳技術	14
パソコン基礎	5
合 計	218

＊遠隔学習課程スクーリング

コース名	延べ出席者数
おしゃべり話題	3
生活場面日本語「学校」	18
生活場面日本語「医療」	11
入門日本語文法文型	6
続・入門日本語文法文型B	12
日本語発音講座	15
読解の基礎	8
漢字学習B	13
漢字ゆっくりA	3
自己表現作文	13
日本語能力試験N2受験準備	4
近隣交際会話	7
合計	113

◇その他

＊特別授業 「感染症の基礎知識」 12/20 講師：青木理恵子（NP0 法人チャーム）参加：7名

＊集中クラス 就労面接実習 参加：1名 講師：中野雅之（大阪YWCA日本語教師会会員）

◇地域交流活動・行事

内 容	実施回数	延べ参加人数
朗朗クラブ 和・洋裁・編み物Ⅰ	31	93
朗朗クラブ 和・洋裁・編み物Ⅱ	32	141
朗朗クラブ 日本語	29	170
朗朗クラブ イキイキ体操	29	155
朗朗クラブ 健康体操	30	62
朗朗クラブ ミニミニクッキング	0	0
囲碁・将棋・トランプ	0	0
傾聴会話交流	0	0
社交ダンス	0	0
地域交流バス旅行 ニンニク収穫体験	0	0
中間学習発表会	0	0
合 計	151	621

◇相談事業 相談件数 344件

◇介護支援事業

＊語りかけボランティア登録人数 77名

＊語りかけボランティア養成研修会 3/28 講師：村松紀子（公益財団法人兵庫県国際交流協会職員）

参加：16名

＊行政機関・介護事業所等訪問回数：23回

◇会議・研修会

＊全体講師会&中間講師会 全4回

＊新人講師オリエンテーション 全2回

＊スクーリング講師研修会 11/14 主催：首都圏センター 参加：藤原純一

＊中国残留邦人等への理解を深めるシンポジウム 11/28 主催：尼崎市 協賛：近畿中国帰国者支援・交流センター
参加：全体約140名

＊講師研修会 ～ズームを使ったオンライン授業～ 10/3 主催：近畿中国帰国者支援・交流センター 参加：22名

(2) 大阪市中国残留邦人等に対する地域生活支援事業

◇身近な地域での日本語教育支援事業

<春・夏学期>

クラス	受講者数
ゆっくり日本語A (梅田)	8
ゆっくり日本語B (梅田)	12
ゆっくり日本語C (梅田)	12
ゆっくり日本語D (梅田)	20
趣味のパソコン入門 (梅田)	8
自習パソコン初級 (梅田)	9
日本語A (平野)	10
日本語B (平野)	10
東淀川朗朗日本語	12
合 計	101

*講師数 10名 *講師会 4回

<秋・冬学期>

クラス	受講者数
ゆっくり日本語A (梅田)	8
ゆっくり日本語B (梅田)	12
ゆっくり日本語C (梅田)	12
ゆっくり日本語D (梅田)	20
趣味のパソコン入門 (梅田)	8
自習パソコン初級 (梅田)	9
日本語A (平野)	13
日本語B (平野)	11
東淀川朗朗日本語	13
合 計	106

(3) 門真市中国残留邦人等に対する地域生活支援事業

◇身近な地域での日本語教育支援事業

<春・夏学期>

クラス	受講者数
日本語A	10
日本語B	4
日本語C	10
合 計	24

*講師数 3名 *講師会 4回

<秋・冬学期>

クラス	受講者数
日本語A	10
日本語B	4
日本語C	11
合 計	25

◇地域交流事業

*朗朗クラブ 実施回数: 19回 延べ参加者数: 108名

(4) 京都市中国残留邦人等に対する地域生活支援事業

◇身近な地域での日本語教育支援事業

クラス	受講者数
日本語A	5
日本語B	5
合 計	10

*講師数 2名 *講師会 2回

◇地域交流事業等

*朗朗クラブ 登録者数: 9名 実施回数: 7回 延べ参加者: 40名

(5) 宇治市中国残留邦人等に対する地域生活支援事業

◇身近な地域での日本語教育支援事業

クラス	受講者数
日本語A	5
日本語B	6
合 計	11

*非常勤講師数 2名 *講師会 2回

◇地域交流事業等

*朗朗クラブ 登録者数: 9名 実施回数: 4回 延べ参加者: 19名

(6) 堺市中国残留邦人等に対する地域生活支援事業（堺健老クラブ）

◇身近な地域での日本語教育支援事業

＜春・夏学期＞

クラス	受講者数
日本語初級 1A	13
日本語初級 1B	14
日本語初級Ⅱ	6
合 計	33

＊非常勤講師数 3 名 ＊講師会 5 回

＊合同クラス&交流事業ボランティア参加：3 回

＜秋・冬学期＞

クラス	受講者数
日本語初級 1A	13
日本語初級 1B	14
日本語初級Ⅱ	6
合 計	33

IV. 青少年育成事業

1. 青少年活動

(1) 小中学生のための異文化理解プログラム

◇主催事業

プログラム名	場所	集会日	人数
やさいも大作戦～走って遊んで焚き火でやさいも～	吹田市自然体験交流センター	11/8	22
親子で竹をつかったバームクーヘンづくり	同上	3/28	23

◇リーダートレーニング

プログラム名	場所	集会日	人数
2020 今のこども達とのかかわり	オンライン	9/4	11
11 月プログラムに向けてのトレーニング	吹田市自然体験交流センター	10/18	8
3 月プログラムに向けてのトレーニング	吹田市自然体験交流センター	2/28	6

◇リーダー会・ワーク

事業名	回数	人数
ミーティング・ワーク	7	40
下見	0	0

2. 子ども図書室事業

◇プログラム

プログラム名	回数／年	延ボランティア数	延利用者数
ちゅうりっぷくらぶ	7	21	96

3. 子育て支援事業

◇プログラム

プログラム名	回数／年	延ボランティア数	延参加者数
おやこひろば	21	58	406
ママズカフェ	8	—	105

V. ボランティア養成事業

1. 梅田

◇行事

行事名	回数	延人数
きまぐれバザー仕事会&開店	11	22

◇作業会

活動名	回数	延人数
発送	12	56
紫蘇ジュース作り	1	8
パン販売	5	29
マスク作り	1	9

◇傾聴ボランティア活動

活動名	回数／年	延人数	
傾聴カフェラベンダーミーティング・勉強会	3	ボランティア	31
訪問傾聴	4	利用者	4
		ボランティア	8

◇グループ活動

グループ名	回数	延人数	グループ名	回数	延人数
みのり会	5	34	スウスの会	6	45
英会話サロン	18	75	いのちを語る会	2	7
聖書を学ぶ会	6	54	絵手紙の会	9	27
手話サークル〈knot〉	7	144			

2. 千里

◇行事

行事名	集会日	延人数
ボランティア室大掃除	7/15	7
千里のグループ活動について考える会	8/31	19
東北に思いを馳せる集い	3/13	38

◇グループ活動

グループ名	回数/年	延人数	グループ名	回数/年	延人数
会館ボランティア	3	10	使用済み切手整理	4	26
聖書を読む会	4	54	ブリッジズ	5	24
合唱団	24	630	文月会	5	34
ハンドベルクワイア	3	30	アトリエ「創」	7	44
コールセンリ	0	0	生花グループ	9	36
サロン四季	3	17			

◇趣味のグループ

グループ名	回数／年	延人数
生花を楽しむ会	9	89
水彩画	8	56

3. ボランティアの受入れ

◇ボランティア説明

説明会（延人数）		
回数	ボランティア希望	職員
5	5	5
登録者数	8	

VI. 広報

1. 機関紙

（1）発行の概要

◇回数 6回（5月、8月、9月、11月、12/1月、3/4月、5月）

◇部数 各2,000部

◇サイズ A4版4ページ

◇配布先 会員・会友、専門学校生、クラス生、講師、賛助会員、賛助会社、各市 YWCA、関係団体、講座・集会参加者、
大阪市内各女性センター、他

◇広告協力会社 有限会社イースター式典社、株式会社一粒社ヴォーリス建築事務所、株式会社オフィスインテリア、
大阪中央法律事務所、学校法人大阪女学院、株式会社藤木工務店

発行月	特集内容		
	1 面	2.3 面	4 面
5 月号	手話サークル Knot (笠井賢一郎／手話 cafe & BAR 運営団体〈Knot〉運営関係者)	多様性に富んだ大阪 Y の活動紹介／ ジェンダー平等が社会を変える	定期会員集会報告
7 月号	平和な島を取り戻すために～宮古島の 基地建設の現状とこれから～ 坂口聖子／日本キリスト教団宮古島伝 道所 牧師	コロナ禍のわたしのチャレンジ ／コロナ禍の専門学校	加盟 YWCA 中央委員会報告
9 月号	アンステレオタイプアライアンス日本 支部 石川雅恵／UN Women (国連女性機関) 日 本事務所 所長	反人種主義抗議運動学習会報告 ／奨学生紹介	アフターコロナをどう生き る？講演会報告
11 月	コロナ禍で深刻化する DV 藤井恭子／大阪法律事務所 弁護士	Baby step 活動紹介／親子でいきい きリレーションシップ紹介	Rise Up 活動紹介
12/1 月号	食べ物は命の糧 中島真紀／認定特定非営利活動法人フ ードバンク関西 理事長	クリスマスメッセージ／ウィズコロ ナ時代に仲間に出会う	こども部活動報告
3/4 月号	アイたちの学校 高賛侑／ノンフィクション作家・映画 監督	イースターメッセージ／東日本大震 災被災者支援 10 年を迎えて	日教養講座案内

会員・会友・賛助員・寄付・募金等

1. 会員・会友

◇2021年3月末会員数 252人

◇2021年3月末会友数 5人

2. 賛助費

◇法人 5社

大阪商工会議所、(株)サンカラーシッピング、積水化学工業(株)、(株)大丸松坂屋百貨店、ワツコ(株)

◇個人 106名

有井由紀子、有田悦子、井口和子、池田洋子、石井由佳子、石神佐知子、伊藤景子、植原昭子、内坂晃、宇都宮ゆかり、江尻美穂子、越後靖子、遠藤真理、大川哲次、大菅照代、大空美矢子、大西徳子、大野弘美、大平美保子、大森浩平、岡由紀子、落合保子、梶原汎子、片山純子、加輪上敏彦、川上光子、貴志慶子、岸田善三郎、日下部眞知子、國里順子、栗本丹志貴、黒田朋子、小池りつ子、河野栄子、河野陽子、小島志佐子、後藤ゆかり、木幡敦子、小林明、小林千重子、小林直子、西条哲、笹部真樹、佐藤朋子、沢田陽子、ジャクティアニー富士子、少徳充子、鈴木伶子、関根久子、芹野恵美、高木裕子、竹本良子、田中英子、田中義信、谷川毅、檀上忠子、辻朋宏、寺中裕子、都木直文、徳平真弓、豊島博子、中川佐知子、中島重徳、中島淑子、中山ゆかり、西名貞子、端野昌彦、波田則子、原口早和子、平櫛圭甫、藤井保男、藤田恭子、藤原智子、藤原裕美子、船越あゆみ、古谷桂子、榊居孝、松江訓子、松下起子、松下宣代、松島紀代子、松田慶子、松田真理子、松田美代子、松永茅光、南憲明、宮澤玲子、向井恭子、宗像千代子、望月文子、森口清子、八木みゆき、安川実千代、安原みゆき、山崎久美子、山田章博、山東史子、山本昌子、吉井知加、吉田佳代子、吉田耕平、匿名5名

3. 寄付

◇個人 (大阪YWCA会員を含む)

赤松久子、秋山佳子、朝岡千晶、阿部晴水、有井由紀子、有田悦子、栗津純子、栗野陽一、飯田雅子、家石貞子、家本陽一、池田洋子、市川道子、伊藤景子、井上由貴子、上野康子、上野優歌、内坂建、遠藤真理、大杉美耶子、太田三紀子、太田麗子、大西美紀・美代子、大原千恵子、小澤裕子、片山隼亮、片山淳子、葛良清子、金澤定節、加輪上敏彦、川口敦子・和子、川崎明恵、川崎仁子、川野啓、北尾敦子、木下暁子、栗原俊子、栗本丹志貴、木幡弘子、小林明、小林千重子、西条哲、齋藤知子、坂上信子、笹部真樹、雀部真理、笹部昌子、鹿野憲一、宍戸百子、蔣建業、少徳充子、白川啓子、末吉佳世子、鈴木豊子、角谷由美子、高木裕子、高野英美子、高橋和子、瀧本政子、田中淳子、田中めぐみ、谷恵美子、谷川毅、谷佐代子、辻朋宏・加代、津戸眞弓、手島千景、都木恵子、徳広彩、所佳子、中務裕之、中土井かおる、仲山由紀子、二谷世津子、根来真実、橋本智香子、原紀子、平井佐津紀、平櫛紀子、平野千代子、深堀潤子、深堀正博、藤井保男、藤岡美智子、藤田実余子、藤本智恵子、藤原純一、古河順子、帆足文子、堀本千代子、本郷千佳子、前川契子、松下起子、松田慶子、松原恵美子、三浦順子、宮崎祐、宮澤玲子、宗像千代子、村上和子、村松通子、森垣房子、森垣友二郎、山下つねよ、山地和家子、山田智子、山田有紀、山東史子、山本圭子、山本淳子、山本宣子、吉田くすほみ、吉田瀧子、吉本律子、渡辺成子、匿名6名

◇団体

アトリエ創、(株)アドワン、生花を楽しむ会、(学)伊丹教会学園二葉幼稚園、一般財団法人中山文甫会館、イワジン真珠(有)、梅田会員部委員会有志、NCC-URM委員会、日本基督教団教団扇町教会、日本基督教団大阪城北教会、(社福)大阪女子キリスト教女子青年福祉会、大阪YWCAクリスマスバザー支援者一同、大阪YWCA千里クリスマスミニセール、大阪YWCA千里合唱団、(株)オフィスインテリア、日本基督教団北千里教会、日本基督教団希望ヶ丘教会、金蘭千里中学校・高等学校、グループパレット有志、コスモ建物管理(株)、子ども図書室、サロン四季、シックスポイント、シャロン千里、水彩画を楽しむ会、聖書を読む会、千里委員会一同、ソフトバンク(株)、但馬地域地球温暖化防止活動推進連絡会、日本基督教団豊中教会、豊中千里ロータリークラブ、配食グループ、東日本大震災被災者支援担当チーム一同、ファンドレイジング支援者一同、文月会、ブリッジズ、ボランティア委員会、マスク製作チーム、日本基督教団南住吉教会、日本基督教団都島教会、ワツコ(株)

4. 募金

◇募金者一覧

秋山佳子、朝川晃子、栗津純子、植木知子、大岡眞知子、大杉美耶子、太田三紀子、太田麗子、大原千恵子、河合由美子、川上悦子、川上眞知子、川崎明恵、川崎仁子、木下蘭子、口羽恵子、口羽勉、工藤時子、

グループパレット一同、こども部一同、坂上信子、阪本和子、雀部真理、鹿野幸枝、東海林恭子、職員一同、女性エンパワメント推進チーム、白井邦子、白川啓子、千里委員会一同、瀧本政子、田中亜子、田中淳子、田中礼子、谷川いづみ、谷佐代子、辻加代、都木恵子、徳広彩、永井淑子、中津陽子、中村友美、中山光世、俳句講座受講生一同、東日本被災者支援チーム一同、平野信江、広瀬圭子、藤岡美智子、Bridges 一同、平和環境部委員会一同、帆足文子、堀河昌子、本田芳子、前川契子、幕谷安紀子、森家さち子、山川文子、山崎康子、山下つねよ、山地和家子、山本町子、吉田瀧子、リーディンググループばれいばれ、渡辺成子、渡辺知子、匿名 1 名

5. バザー協力企業・団体

味の素(株)、(株)アドワン、伊那食品工業(株)、(株)インターアークアソシエイツ、永和信用金庫、(株)オフィスインテリア、(株)神川工務店、コスモ建物管理(株)、シェラトン都ホテル大阪、(株)ジュノインターナショナル、大寅蒲鉾(株)、(株)大丸松阪屋百貨店、大和ハウス工業(株)、帝国ホテル大阪、日本生命保険相互会社、(株)野木、伯方塩業(株)、(株)阪急阪神百貨店、(株)プランニングキュービック、山久食品(株)、リーガロイヤルホテル、ワツコ(株)

6. 補助金・助成金(順不同)

助成団体	金額(円)	受入れ先
社会福祉法人吹田市社会福祉協議会	36,000	点字子ども図書室
社会福祉法人大阪市北区社会福祉協議会	200,000	ソーシャルワークセミナー、傾聴カフェラベンダー
公益財団法人日本YWCA	70,000	女性エンパワメント推進チーム
公益財団法人日本YWCA	1,508,000	総務
一般財団法人泉北の街と暮らしを考える財団	180,000	女性エンパワメント推進チーム
日本郵便株式会社	598,480	点字子ども図書室
独立行政法人国立青少年教育振興機構	487,481	講座部
文部科学省総合教育政策局	23,008	東日本大震災被災者支援担当

会議等

1. 評議員会

◇評議員 任期 2019 年 6 月 22 日～2023 年 6 月 21 日

朝川晃子、井口智子、太田麗子、片山淳子、川崎知子、辻川さとみ、西村由紀子、平井佐津紀、広瀬圭子
深堀潤子、堀河昌子、松岡美智代、村松通子、横内いづみ、渡邊成子

◇評議員会の開催

回	開催日	議 案
1	2020 年 6 月 20 日	第 1 号議案 2019 年度事業報告 第 2 号議案 2019 年度決算報告及び監査報告 第 3 号議案 諸報告
2	2021 年 3 月 18 日	第 1 号議案 2021 年度事業計画(案) 第 2 号議案 2021 年度予算(案)、資金計画及び設備投資の見込みについて 第 3 号議案 諸報告

2. 理事会

◇理事・監事 任期 2019 年 6 月 22 日～2021 年 6 月 21 日

代表理事：鹿野幸枝 理事：小澤裕子、雀部真理、谷川いづみ、辻加代、津戸眞弓
常務理事：中山羊奈 業務執行理事：中村友美、山下つねよ
監事：坂上信子、三木秀夫

◇理事会の開催

回	開催日	議 案	
1	2020 年 5 月 25 日	第 1 号議案 第 2 号議案 第 3 号議案 第 4 号議案	2019 年度事業報告 2019 年度決算報告及び監査報告 2020 年度第 1 回評議員会の開催について 諸報告
2	2020 年 9 月 18 日	第 1 号議案 第 2 号議案 第 3 号議案 第 4 号議案 第 5 号議案	事業報告 日本語教師養成講座について 日本語専任講師について ウイスタリアについて 職員、パートタイム職員就業規則改訂（案）について
3	2020 年 11 月 7 日	第 1 号議案 第 2 号議案 第 3 号議案 第 4 号議案	下期見通しによる決算見通しについて 日本語専任講師の募集について ウイスタリアについて 事業報告
4	2021 年 2 月 5 日	第 1 号議案 第 2 号議案 第 3 号議案 第 4 号議案	2021 年度事業計画(案)について 2021 年度予算（案）、資金計画及び設備投資の見込みについて 評議員会の日程について 事業報告

3. 職員・専任講師

◇職員

総幹事 中山羊奈
幹 事 川崎（三國谷）仁子、中村友美、坂東暁子、山下つねよ、藤田実余子、吉本沙矢香（育休中）
幹事補 上野優歌、牛江真由子、奥美和子、桑原静枝、原田千尋、李婧
非常勤 五十嵐裕、岩井一枝、小野美也子、加藤真弓、金子蘭、岸田尚美、黒須史江、小村龍男、田中直美、坂東摩波、藤原裕美子、堀奈央美、松下宜代、山本いち子

◇職員会 20 回

◇専任講師 専任講師：氏原庸子、清島千春、小出芳生、佐伯玲子

◇専任講師会 6 回

4. 設置委員会等

委員会名	回数	延出席数	委員会名	回数	延出席数
評議員会	2	32	大阪版編集委員会	7	32
理事会	4	41	梅田会員部委員会	7	54
財務委員会	4	42	千里委員会	9	148
人事委員会	3	17	会員委員会	4	40
運営委員会	8	96	千里子育て支援委員会	2	26
運営委員会役員会	12	65	千里ボランティア委員会	5	45
平和・環境部委員会	8	67	奨学金委員会	3	19
女性エンパワメント推進チーム	10	77	東日本大震災被災支援担当	7	40
こども部委員会	9	41	ミュージカルワークショップ実行委員会	2	11
グループパレット委員会	2	13	指名委員会	2	14

施設維持・不動産管理

◇会館整備

2 階 LAN 配線ネットワーク構築工事

世界YWCA、日本YWCA、他市YWCA関係

内 容	日程	参加者数	内、大阪YWCA
YM/YW合同祈禱週集会	11/10	40	6
第2期LA企画4市Y合同ミーティング			
タスクチーム①ミーティング	6/21、9/6、11/3、1/10	90	12
タスクチーム②ミーティング	6/28、10/11、12/13、	62	10
全体ミーティング	1/31	21	5
打合せ	5/8、6/19、20、24、8/20、 10/26、11/16、2/24	32	8
日本YWCA職員研修会（1～3年目）	6/6、7/4、8/1、	53	17
日本YWCA職員研修会（1～3年目）フォローアップ	9/19、10/24	18	6
日本YWCA幹事研修会（4年目以降）	8/27、9/3、10、17、24、10/1	78	12
日本YWCA職員研修打合せ	4/30、5/16、6/5、22、7/3、 7/20、8/13、10/14、1/22	40	11
加盟YWCA会長会	4/25	15	2
加盟YWCA中央委員会	5/22、23	58	5
日本YWCA全国会員総会	11/23	188	16
日本YWCA会則改正案説明会	7/28	20	1
日本YWCA全国会員総会議案説明会	10/10、16、17	約55	5
日本YWCA 北京女性会議・北京行動綱領採択から 25年！ジェンダー平等に向けた Intergenerational Dialogue	11/22	147	5
日本YWCA Intergenerational Dialogue 打合せ	10/12、17	17	3
日本YWCA Intergenerational Dialogue リハーサル	11/15	9	2
日本YWCA Y's Café “ジェンダー”	11/7	25	3
福島YWCA 3.11「あの時」そして「これから」	3/13	約40	1
福島YWCA 3.11「あの時」そして「これから」 打合せ	2/10、3/4	13	2
全国合同 Rise Up！交流会	3/27	23	2
全国幹事会オンライン分科会	1/26	29	6
代表幹事会	6/10、7/15、8/26、9/16、 11/24、1/14、20、2/18、3/18	55	9
日本YWCA人材開発センターミーティング	8/6、20	18	4
総幹事会	4/22、5/25、10/28、1/27	40	4
総幹事会 COVID-19 対応に関する情報共有会	5/14、6/18	26	2

* 日本YWCA理事、財政・会館事業部会、建物管理部会：鹿野幸枝

* 日本YWCA理事、財政・会館事業部会、人事部会、候補者選考委員会：谷川いづみ

* 日本YWCA運営委員：雀部真理（第32、33総会期）、松原恵美子（第32総会期）

* 代表幹事：中村友美

※LA（＝Local Action）：地域YWCAが主体となるプログラム助成。2019～2020年度が第2期となる。

外部関係団体

一般財団法人大阪市青少年活動協会、一般財団法人大阪府青少年活動財団、青少年育成大阪府民会議、大阪府キャンプ協会、公益財団法人大阪ユースホステル協会、公益財団法人大阪ボーイスカウト振興協会、社会を明るくする運動実行委員会、特定非営利活動法人関西国際交流団体協議会、公益財団法人大阪府国際交流財団、大阪地域留学生等交流推進協議会、大阪府男女共同参画推進連絡会議、大阪市企業人権推進協議会、社会福祉法人関西いのちの電話、大阪商工会

議所、特定非営利活動法人いくの学園、大阪市 DV 施策ネットワーク会議、大阪府 DV 施策ネットワーク会議、DV 被害者支援ネットワーク近畿、NPO 法人全国女性シェルターネット、国際女性年大阪連絡会、特定非営利活動法人関西 NGO 協議会、日本基督教団大阪教区核問題特別委員会、大阪キリスト教連合会、大阪キリスト教婦人連合会、NCC 都市農村宣教委員会、全国専門学校各種学校日語教育協会、全国専門学校各種学校連合会、大阪府専修学校各種学校連合会、一般財団法人中山文甫会館、国連ウィメン日本協会大阪、憲法 9 条の会・関西、九条の会・おおさか、ヒバクシャ国際署名推進・大阪連絡会、学校法人大阪女学院、認定 NPO 法人大阪被害者支援アドボカシーセンター、社会福祉法人大阪キリスト教女子青年福祉会